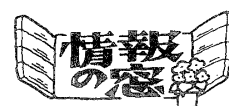


# 創立40周年記念式典・中部支部シンポジウムルポ



中出 康一 (名古屋工業大学), 金子 美博 (岐阜大学)

平成9年10月25日(土), 心地よい秋風の吹く中, 名古屋市昭和区の南山大学本部会議室において, 日本OR学会創立40周年記念中部支部シンポジウムが, 中部支部の創立35周年記念も兼ねて行われた。シンポジウムは, 澤木勝茂先生(南山大学)の司会のもと, 和やかに進められた。

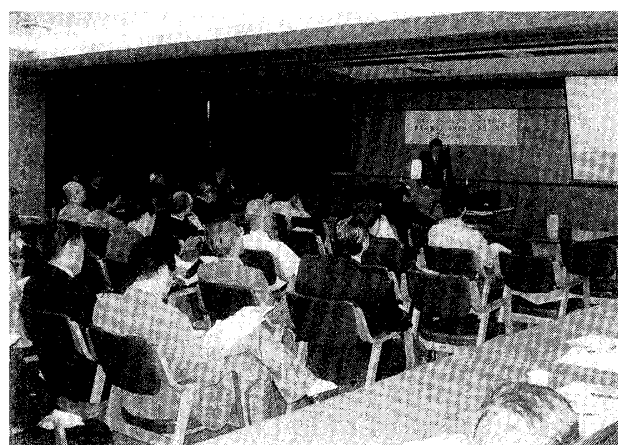
冒頭, 実行委員長である本告光男先生(愛知工業大学)より, 開会の挨拶があり, 約70人の参加者へのお礼が述べられると共に, 中部支部創設時のエピソードが披露された。名古屋工業大学元学長の清水勤二先生が名古屋の財界に協力を要請し, 当時の運営委員であった小野勝次先生らと共に中部支部設立に尽力されたそうである。また, 当時は月に1回の研究会(職場での問題を聞く会)ならびに入門講習会が開かれており, これが現在の支部活動の中心となっている研究会へと発展していった経緯が紹介された。

次に, 刀根薫日本OR学会会長(政策研究大学院大学)が記念式典の冒頭の挨拶に立たれ, 中部支部の35周年への祝辞を述べられると共に, OR学会の会員数の推移等が報告された。すなわち, 創設時305名だった会員数が現在3100名余りと大幅に増え, 現在は第3世代に入ってきていること, また, 現在でもORの問題は巷に山積されていることなどが指摘された。

このあと, ORの新潮流報告として, 記念シンポジウムが行われ, 刀根先生と茨木俊秀先生(京都大学)から, 興味深い話を非常にわかりやすくご解説いただいた。最初に, 刀根先生は「経営の科学としての新潮流」と題して, 1900年以降のORの歴史の流れやORが適応される分野を紹介された。つづいて, 経営の科学の「知のインフラ」として独創性, 展開力, 実現力が三位一体で必要不可欠であるのに, 日本ではそれらが立ち後れているため, 今後確立する必要があること, ORの研究者はその先頭を切らなければならないことを強調された。続いて, 茨木先生は「数理計画の半世紀と今後」と題して, Dantzigに始まる数理計画法分野の歴史と研究の成果について簡単な解説を行われた。その中で, 経営科学の第1号の表紙を引用される等,

当初より, 数理計画はORで重要な位置を占めていたことを指摘された。また, この分野の海外での発展と共に, 日本の研究者がこの発展に貢献し, 今なお多くの分野で世界的に活躍していることを, 実名を挙げながら解説された。最後に, 数理計画はこの半世紀, ORの問題解決のための1つとして不可欠であり, 今後もその重要性はますます必要である, と結論づけられた。

休憩をはさんで, 三吉暹氏(トヨタ自動車取締役)により, 「21世紀におけるトヨタの情報通信事業」と題した記念講演が行われ, 冒頭, 本部設立40周年ならびに支部設立35周年に対する祝辞が述べられた。講演では, まず, マルチメディア産業の動向として, インフラストラクチャの波が, 過去50-55年周期で運河, 鉄道, 高速道路と経て, 現在は第4の波である, 情報通信がピークを迎えつつあること, ならびに, マルチメディア産業におけるアメリカの発展ぶりが紹介された。次に, マルチメディアの3要素としてディストリビューション(通信, 放送網), コンテンツ(ソフトウェア), プラットホーム(コンピュータ, 情報端末)を挙げ, この要素をうまく取り入れることで日本のマルチメディア市場は95年の29兆円から2010年には125兆円にまで増大し, 自動車市場をはるかに上回るものになると述べられた。なかでもコンテンツはその半分以上の69兆円市場になると予測し, この分野への早期



記念講座



懇親会風景



懇親会記念撮影

参入が大事だと述べられた。つづいて「2001年マルチメディア時代への出発」と題したビデオにより、国内外のマルチメディアの活用例の紹介があった。さらに、トヨタ自動車の情報通信事業の今後の展開として自動車のインテリジェント化を挙げており、料金所の自動支払い、ダイナミックルートガイダンス、駐車場予約といった近々実用されるものから、カーマルチメディアに対する夢まで、ときおりユーモアを折りまぜ、興味深い話をいくつもされた。

このあと、八事マルベリーホテルにおいて、中川覃夫先生（愛知工業大学）の名司会のもと、約40人の参加者を得て懇親会が取り行われた。中部支部の元支部長ら、同支部の発展にご尽力された方々の挨拶や、小野勝次現中部支部顧問の近況に関するエピソードの披

露など、和やかな雰囲気の中で宴が進行し、時が経つのを忘れる思いであった。ただ、参加者は、創設時からの関わりを持った方々が目立つ一方で、20才代、30才代の若手会員の参加が少ないのが気がかりであった。この点に関して、現中部支部長の小谷重徳氏（トヨタ自動車）は最後の挨拶の中で、中部支部ではもともと若手会員が少なく、研究会への参加が最近減少傾向にあることを憂いているため、若手の会員が増加し、中部支部での研究交流が盛んになるように、今後、会員のなご一層の努力が求められていることを切実に訴えた。

最後になりますが、この記念行事に関し、多大なご支援をいただいた南山大学、ならびに貴重なご講演をいただいた講師の先生方には深く感謝いたします。